

作成: 芝崎

63. サラリーマン時代篇:あるメーカの工場見学の思い出 〈約40年前〉その1

- (1) 四国/松山市の南にある山間の街「内子」とご存じでしょうか？風光明媚なところで、和蠟燭で有名なところとか、この片田舎に「大岡製作所」というねじ切り工具/タップ、ダイス(備考: タップ; タップダンスではなく、ダイス: ゲーム等で出てくる正多面体ではない)を精密工具製作しているメーカがあり、商社の勧めで5月頃工場見学をした事があった。
- (2) 工場は古い民家を改造したような木造の建物であったが、周りは山間にあり、とても木々の緑、きれいな流れているとても気持ちの良い環境であった。内外の印象の差を大きく感じた。
- (3) 一通り工場見学及び意見交換後、工場長から「最後に何かコメントありますか？」に対し、気になったことを、「旋盤作業しているエリアがとても暗い感じで作業環境を見なおしてはどうか？」と質問、工場長から「この10年視力が悪くなった従業員はいない」との回答。反骨精神なのか意外な回答ゆえに今でも記憶に残っている。

風: (風)前の灯火?の会社のイメージであった...

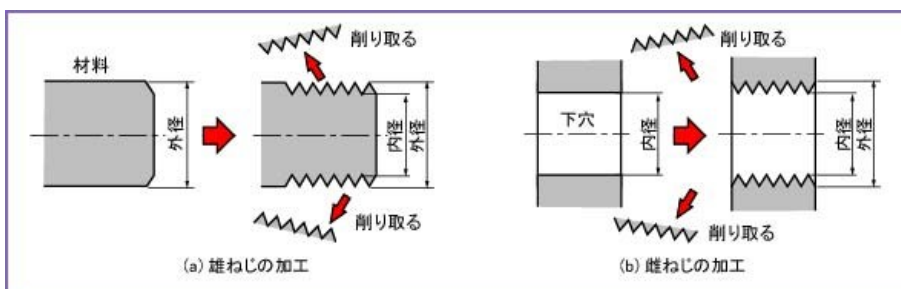
光: (光)輝く、周りの環境、とてもいいなあと思ったが...

明: (明)るいとはいえない作業環境はなんとも薄暗い...そのギャップの差があり過ぎる

媚: (微)動だにせず、今も存続してることがわかり、課題を乗り越えたことがとてもうれしく感じた。



ねじ等を製作する切削工具を製作するメーカゆえに、一般金属材料を削るためにはさらに硬度の高い工具で高度の切削技術が必要。その為に熟練工が(ちょっと薄暗い所で)製作することで、現状は品質がとても良いが、次の熟練工をどうするのかという課題が気になる。若者がいない:これも工場を暗くし、さらなる生産の向上が望めるのかといささか不安だった。



以上